

柏原市社協から私は！ LINEを活用した2つの事業に取り組んでます！！



西村さん



担当者の声 (平松さん)

1つ目の取り組みはLINEを通じた地域づくり！！

社協では、大阪教育大学や関西福祉科学大学に通う1.2回生が柏原市社協のLINEに登録すると、賛同している飲食店の割引クーポン券がもらえる「地域応援団プロジェクト」を進めている。これは、コロナ禍で収入が減少した飲食店を応援するだけでなく、アルバイトができず収入が減少した大学生にクーポンを配布することで、少しでも経済的な負担を減らそうと始まったものだ。

社協が主体となり、近隣の大学に通う大学生の生の声を取り入れ、チラシ作りを行うなど一緒に企画している。

社協の役割は、さまざまな立場の意見を調整すること。地域住民をはじめ大学生や行政など、多様な人が参加する中で、「やりたいことがあるけれど、どうすればいいかわからない」という声もあります。そんな時は一緒に考えて、情報を提供・共有しています。

目標は、近隣の大学生と社協がLINEを通じて継続的な関わりを持ち、将来的に地域福祉活動の担い手につなげること。学生にとって、社協やボランティアに出会うきっかけとなり、ボランティア活動の敷居を下げる一助になればと願っています。



平松さん

泉佐野市 社協から私達は！

外国人のつながりづくりを
行っています！！



奥野さん 葛迫さん



山本さん 高橋さん

泉佐野市には関西国際空港があり、市内に外国人の住民が多いという特徴がある。

このコロナ禍で、関空の大部分が閉鎖され休職となり、仕事もないが母国にも帰れないという外国人が生活困窮に陥ってしまった。そんな外国人に、生活福祉資金・住宅確保給付金といった経済的支援を行う中で、居場所・つながりづくりが必要だと感じた社協メンバーは、外国人に声をかけてNPO法人ica(泉佐野地球交流協会)と共同で座談会を開始した。

座談会では同じ母国語をもつ人同士を集め、リラックスした雰囲気づくりを心がけている。

担当者の声

奥野さん、葛迫さん、山本さん、高橋さん

私たちの社協では、今まで外国人への支援は行っていませんでした。

ところが、今回のコロナ禍で生活の悩みを抱える外国人が市内にたくさんいることが分かり、7月から座談会をスタート。ニーズを見つけたら、迅速・柔軟に対応できることが社協の強みです。

そのためには、日頃から、社協職員同士はもちろん、市内関係各所との連携を強化していくことが重要です。そうして日々培ってきたつながりを生かして、事業を成功させていくことが社協の魅力だと思っています。

私たちの仕事は、日常生活の中の目の前に立ちはだかる壁をなくす、低くするお手伝いをする事です。何かお困りごとがあったらお気軽にご連絡ください！

利用者の声

ここに来ると自分の知らなかった制度などが知れました。コロナ禍で初めて社協を知ったけど、今後もボランティアなどの形で社協とかかわりたいです。



実際の座談会のようす

何気ない会話の中から生活の悩みを拾っていく



泉佐野市社協では、個別支援担当と、地域支援担当の話しあいの場をととても大切にしています。多様な職種が連携を密にすることが、市内の生活課題の早期発見、解決につながっています。

シャッピー
泉佐野市社協マスコットキャラクター

社協

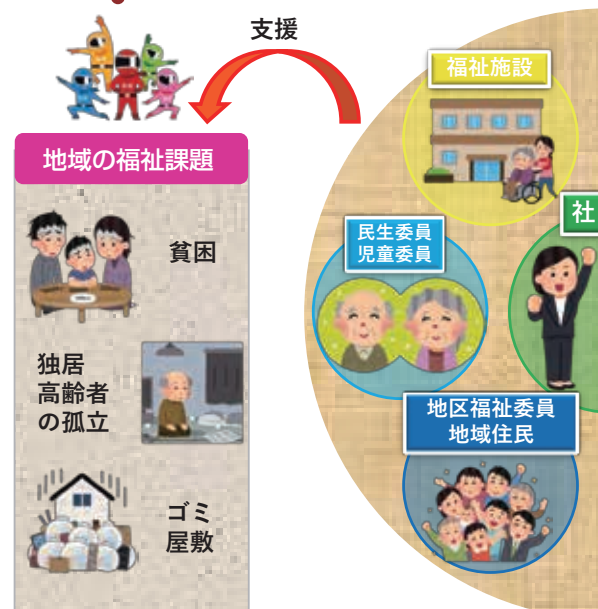
社協ってなんだ？！

社協とは、社会福祉協議会の略称。全国社協、に連携しあって、「地域福祉の推進」を担って社協の役割は、一言でいえば「地域の縁の住民一人ひとりがその地域の中で、自分ら社協のミッションだ。

ただ、このミッションは社協だけでは到底ボランティア、NPO、行政等の関係機関、そして、みんなで誰もが住みやすい地域をつくる実情に合わせたものだ。

このコロナ禍でも新たな生活課題、生活様式たちのために、さまざまな活動を展開。そんなする。

社会福祉協議会のネッ



2つ目は ボランティアのマッチング!!

柏原市社協のLINEに登録したボランティア団体に、ボランティア情報を送り、都合があれば、ボランティアに参加してもらう仕組みを導入。以前は、電話でマッチングをしていたので調整がうまくいかないことも。

導入後は、業務外でも簡単に連絡が取れるようになった。また、事前にボランティアを受け入れる施設等の要望もわかるので、ニーズに寄り添った活動が実施できている。

担当者の声 (西村さん)

マッチングをする際に、ボランティア団体とボランティアを受け入れる施設や学校の要望や思いを汲み取り、両者にとって意義のある活動に結びつけることを大切にしています。ボランティアに固執せず、気軽に何かしたいと思ったことを社協に伝えてもらえれば、実現できるようにサポートしたいです!!

利用者の声

LINEを使い出してから、活動の連絡調整がとてもスムーズに進むようになりました。社協からきた依頼をすぐに団体のグループラインで共有できるので、助かってます。

私たちは、ダンスやウクレレ、歌謡曲も披露する団体です。

私にとってボランティア活動は趣味の延長。趣味を自分だけで終わらせるのはもったいない!誰かに見てもらって喜んでもらえるのはうれしいです。みなさんもぜひ活動してみてくださいと思います。

柏原市登録ボランティア団体
ラ・フローレス
代表 齋部さん



門真市社協から俺は! 認知症の方や高齢者の 夢を叶えるお手伝いをします!!

「かどま折り鶴 12万羽プロジェクト」は、門真市社協が事務局の「ゆめ伴プロジェクト IN 門真」と「NPO法人ト

イボックス（ルミエールホール指定管理者）」、「リサイクル工房布くらふと」が協働し実施された。これは、コロナ禍で普段の活動が停止する中、ゆめ伴プロジェクトのメンバーである山川さんの「高齢の母が折り鶴を折って元気になった」という話を聞いて生まれた。市内人口12万の折り鶴を集めて飾ることを目標に郵便局やスーパーをはじめ、地域のいたるところに折り鶴回収箱を設置。また、市内の高齢者施設やデイサービスセンターからもたくさんの高齢者が折り鶴の製作に参加した。さらに活動の輪は広がり、他市や他県からも多くの折り鶴が届けられ、目標を大きく上回る15万羽の折り鶴が集まった。折り鶴は「布くらふと」と地域のボランティアによって壮大なアート作品として製作し、展示された。



門真市内のルミエールホール



小松さん

担当者の声

小松さん

活動で大切にしているのは、認知症の方や高齢者の声を引きあげて活動に結びつけること。

今回も、高齢のお母さんと娘さんの小さなつぶやきが元となり、メンバーみんなで考えて生まれた企画。認知症や高齢になっても思いがあり、夢が実現できないわけではありません。高齢者の方から教えてもらうこともたくさんあります。今後も高齢者の方を主体に「笑顔ではじまり笑顔で終わる」活動を行っていきます!

社協で働く魅力は、人と人をつなぎ、つながること。自分自身も楽しみながら「地域づくり」ができます。コロナの中、できないことに目を向けるのではなく、今できる最善のことを考えて、新しい取り組みにチャレンジできるのは、社協ならではの楽しみです。

利用者の声

ゆめ伴は、ドアをあけると引っ張り出してくれる存在。母は活動初期、活動への参加を拒否することもありました。のんびりと参加する中で、顔なじみも増え、徐々に心を開くように。ゆめ伴のメンバーは、同じ立場の仲間として一緒に活動してくれます。だからこそ、メンバーの一員として、次は何をしようかみんなで考えるのが楽しいです。

「ゆめ伴プロジェクト IN 門真」は、「認知症になっても輝けるまちづくり」を実現するために活動している。普段の活動では、認知症や高齢の方が働けるゆめ伴カフェの運営や認知症の方が1日店長をするゆめ伴マーケット、綿花や野菜を栽培するゆめ伴ファームなど、認知症になっても輝ける街づくりを行っている。



ゆめ伴プロジェクトメンバー
山川さん(左)、母のアイさん(右)

都道府県社協、市区町村社協に分かれ、相互

いる。

下の力もち」。

しく暮らせるように手助けしていくことが

達成できない。そこで、民生委員や福祉施設、して地区福祉委員会や地域の人々の力を借っている。その活動は自由度が高く、各地域

式に各社協はすばやく対応し、困っている人な中から今回、3つの社協の取り組みを紹介

トワークと地域の福祉課題

